

いろいろ学んだドイツフエステイバル



ドイツ文化をもっと知りたい

私達こども新聞は11月1日に青山公園で開催されたドイツ・フエステイバルに参加しました。プレッセルやソーゼン、ワインなどの食べ物や飲み物を売っている店がほとんどでしたが、ドイツの小物や文房具を売っている店もいくつかありました。ステージでは、音楽が流れていて、みんな話しながら食事を楽しんでいるととても盛り上がりがありました。



取材を忘れて(1?) サッカーゲームを楽しむこども記者たち

日本のハロウィン & ドイツのハロウィン
 日本やアメリカは仮装をして、おかしを入れるふくをもつて、トリック・オア・トリートといっておかしをもらいますよね。でもドイツのハロウィンは、少し違います。ランタンを自分たちで作って、子どもたち全員で歌いながら「Halloween Song」を歌って、町を歩き回ります。これはふだんケーキのようなおかしを食べられない人にもおかしを配っていく行動です。(小5/Y・T記者)

ドイツ・フエステイバルに行ってきたので、ドイツのことをよりたくさん知れたと思います。また思ったよりも興味深く、ドイツの文化のことももっと知りたいと思うきっかけになりました。(小6/N・O記者)

ドイツと日本は仲良くなるとうと努力中!
 メインステージでは、ドイツ大使館の方が来て話してくれました。ここではドイツの味はすぐ近く近いドイツ料理があり、おこまきました。例えば、カレーフルストやフラムクーヘンなどです。

ドイツのお祭り

「ザンクト・マーティン」
 ザンクト・マーティンデーとは、子どもたちがランタンを持って町を歩くドイツのお祭りです。成り立ちは、マーティンといふ人が、町で寒さにふるえている人に、自分の上着を力であげるとして、ランタンには「社会にもあかりを」という意味がこめられています。マーティンのやさしさが、長く残っているお祭りです。これから先もずっと、続いていけたらいいなと思います。(小4/N・M記者)

ドイツのあれこれを学びました



(公財)日独協会のミリアムさん(右)とカイさん(左)

ミリアムさんとカイさんが、ドイツ大使館の方に話を聞いてくるところ。日本はドイツよりも休みが少ないそうです。ドイツでは少々の有給休暇と病気での有給休暇が区別されていて、病気ですすんで給付がなくなってくるそうです。ドイツとは少し違うところがあるけれど、ドイツと仲良くなりたいうう思いが伝わってくるお祭りでした。(小5/M・F記者)

ドイツの食文化とサッカー

会場からはとても食欲をそそるようなドイツの食のいい香りがしほくも一品食べてみたらすすくおいしかったです。



ドイツのサッカーリーグ「ブンデスリーガ」について取材

ドイツの料理

ドイツの食といえは、ソーゼンです。ソーゼンの歴史は、ハムよりも古く、ホタロスの「オデュッセイア」にも登場します。その時は、山羊の胃袋に血で脂身を詰めた兵士の携帯食としててきています。他にもドイツ・フュネイバルには様々な料理が並んでいました。また、ドイツには「レッツェル」や「ジャーマンポテト」などもあります。プレッセルはあちっとした食感がおいしく、ジャーマンポテトはドイツの方のおすすり食品です。



ザラクラウトやキャッツの酢けりと一緒にソーゼンをいただきます



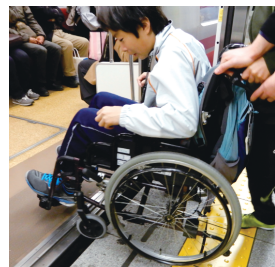
勇気(ゆうき)を出す!

11月18日、車いすに乗って、湯島を取材しました。車いすを坂を下るのに、後ろを向いて「パートナー」にフレイキをかけてもらいながら下るので、わかったです。たん差、黒字アロックス、名い、香川、大迫(おおさか)、原口選手など、ほかにもたくさんの選手がドイツでサッカーをしています。ぜひ、ブンデスリーガでも活躍してほしいですね。期待しています。(小5/S・S記者)

インバンド&車いす体験取材

観光ガイドさん

今回車いすめぐりのこと、事、子供がいなくて、この道を歩かなくて、絵を使って楽しく説明したり、色んな遊びがありました。お客様に安全に楽しんで、文京区のことを知ってもらうために、お客様のペースに合わせてガイドをしようと思っています。



電車とホームの小さなすき間も車いすだと大変(小5/C・K記者撮影)

車いすは乗っているときは大丈夫だけど、おしているときには、だんさや障たんがある、たん差をえたり、障たんだったらエレベーターに乗ってはいけないから大変です。もし車いすですら、人がいなくても、障たんを困っている人がいて、それを助けるようにしたいです。(小4/H・A記者)

最後に、なぜガイドをしようと思ったのか聞いたところ、文京区の歴史を調べたら、とてもおもしろかったので、他の人に伝えたい!と思ったからなんです。また、達成感を感じる時は、お客様に感謝されたり、心が通じたりする時です。ありがとうございました。みなさんもガイドが終わったら必ず感謝をしましょう。今回観光した湯島と神田をめぐるコースは、湯島聖堂が私が一番見所だと思っています。(小5/K・F記者)

おすすりめのガイドツアー!

今回、観光ガイドの野崎和彦さんと森安恵さんに、学問の聖地湯島コースのツアーをしていただきました。おすすりめのツアーを聞く、森さんは今回の「学問の聖地湯島コース」が一番最初にそのルートを考えたので、そこが好きだと言っていました。野崎さんは「横一口」葉ゆかりの地コースや「水と緑の開口」コースでは、景色がきれいなコースです。ガイドツアーは、一人以上から申し込めるので、ぜひ参加してみてください!

その時にあわせたツアーにしてくれたら、ちょっと楽いがあったりと、ツアーにものはおすすりめを感じました。(小5/C・K記者)

障がいのある方に対しての行動
 車いすに乗って別の記事が体験したのですが、エレベーターから下りる時、早く下りるべきできなかったから、かまっている方が文句を口に出したそうです。私は、同じ人間同士で、ただ障がいがあるだけで、そんな感じを受けたくていいの、かと思いました。ですが、きちんと考えてくれている方々もたくさんおりました。たとえ先ほどと少し違って、かたまりと先ほどの方はは違っていたけれど、ありがとうございます。今後の障がいのある方に対するおすすりめを一度考えなおさなければいけないと思います。(小5/C・K記者)

その時にあわせたツアーにしてくれたら、ちょっと楽いがあったりと、ツアーにものはおすすりめを感じました。(小5/C・K記者)

車いすを運転する時の注意点
 電車とホームの間はすき間があるので、のりかえが大変です。車いすに乗ってはいない人だと、首を回してま

わりを見ることができると、車いすを回して、車いすに乗っている人でも、まわりが見られそうにしてあげると、よかったです。ありがとうございました。今日やっとなんか、いかしてやってみようと思います。(小5/R・M記者)

インバンドと配慮(はいりょ)
 インバンドとは、外国の方が日本を訪れる際、指します。その国について知るためには、ガイドさんが必要だと思えます。その場所について詳しく話してくれるので、多くの情報をまとめることができます。安心、わかりやすく意識して、ガイドさんは、旅行かかせない存在だと考えるからです。そしてオリピック・パラリンピックのときに「配慮(かづやく)てくださる」と思います。

外国の方は神社や寺も観光するでしょう。しかし、階段の多い神社などは、車いすの方には登れず、僕は、車いすに乗る体験をして初めて気づいたことがあります。それは、日本の神社にある段差が、車いすの人にとって不便であるということです。だから、2020年までに車いすの人が神社などに参拝できるように配慮が必要です。また、設備を整えるだけで困っている人を見かけたら、自分から助けに行こうようにしたいです。(中/K・A記者)